

「強み」を一磨け

ヤノ技研

(宝塚市)

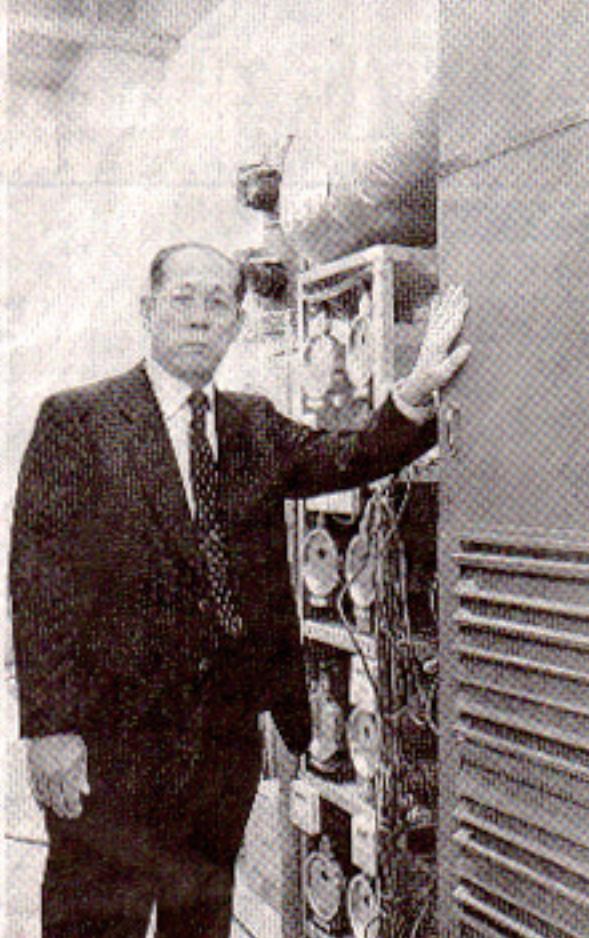
五年は長い」と歎く。

かつて大手住宅メーカーに勤務し、住宅用の蓄熱空調システムの開発を担当。電力会社や大学と連携し、エアコンの熱エネルギーや冷熱を蓄え、効率的に使うことで「省エネ化」を実現する空調システム開発を目指した。

社員数はわずか五人。しかし、数百社に及ぶ中小企業の技術開発や支援に携わってきた新産業創造研究機構(NIRO)が「この会社は、将来必ず伸びる」と、太鼓判を押す企業だ。

創業から六年目の今年十一月には、有望ベンチャー企業として関西ニュービジネス協議会の表彰も受けた。受賞を機に、大手建設業者や住宅メーカーからの問い合わせが相次ぐ。が、社長の矢野直彌(やの なおよし)の自説は「私の計画通り

アーティー 2002年12月に創業し、資本金は1050万円。宝塚市にある本社のほか、神戸・ポートアイランドの神戸国際ビジネスセンターに研究所を開設する。ヤノ技研のシステムは1台のエアコンで全室の空調ができるのも特長という。



「研究者人生を注いで開発した空調システムです」と語る矢野直彌社長。自ら研究し、改良

続・光る企業

エクトは中止に追い込まれた。「事業化を目前にして、長年の夢が絶たれた」と当時は想いを振り返る。

その後、定年を迎えた矢野は起業を決意。「環境保護への関心が高まるなか、地球に

優しい空调が求められる時代には必ず来る」と確信していたからだ。勤務していた住宅メー

カーカから自身が開発した技術の特許を譲り受け、200

1年はヤノ技研を設立した。矢野らが開発したのは、料金の安い深夜電力を利用して蓄熱する空調システム。加えて、一八度の温度で空調に必

要な熱エネルギーを発生させられる蓄熱材も開発し、省エネ効果を高めることにも成功

した。夜間電力の使用率は50%達する。

新しい技術や製品は開発できたものの、会社を設立した当初は厳しい状況が続いた。兵庫県や神戸市の補助事業にも積極的に応募。採択を信頼性の証として売り込んだ。

省エネの時代先取り

先にも相手にしてもらえない大手企業から独立する「この大変さも実感した」現状を開拓するため、NIROの支援を受けながら、大手のモデル住宅や民間住宅への試験的な導入を始めた。兵庫県や神戸市の補助事業にも積極的に応募。採択を信頼性の証として売り込んだ。

関西ニュービジネス協議会やNIRO、県などからは、技術だけでなく、会社の高い環境意識への評価も受けているという。「長い道のりを歩んでようやく飛躍がかな、という所まで来ることができただ。退職する日がまた遠くなつたかな」。ほほ笑みながらの口調には確かな情熱がじんじん。

(末永陽子)
●教科略